

枝物等の経営，栽培に関する研究（I）

クジャクヒバ

鹿児島県林業試験場 東中 修

1. はじめに

鹿児島県の気候風土を活かした枝物等の栽培技術を確立するため、経営調査、増殖試験、栽培試験等を行っている。今回はオウゴンクジャクヒバ（以下クジャクヒバという）の栽培事例について経営分析を行ったので報告したい。

2. 分析農家の栽培管理

県内のクジャクヒバの生産は近年、表-1の鹿児島花市場の枝物市況に示すとおり市場価格も安定していることから栽培面積は徐々に増加している。

表-1 鹿児島花市場の枝物市況（資料：花き流通統計資料）

| 作 目 | 元年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 備 考 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|----------|
| サ カ キ | 227.4円 | 268.2円 | 309.1円 | 251.7円 | 271.8円 | 1束(4~5本) |
| ヒ サ カ キ | 89.4 | 106.0 | 119.7 | 114.9 | 128.0 | 〃 |
| シ キ ミ | 214.2 | 233.5 | 266.2 | 271.0 | 312.6 | 〃 |
| クジャクヒバ | 137.9 | 142.8 | 143.5 | 146.1 | 142.3 | 1本 |
| センリョウ | 139.1 | 101.4 | 73.4 | 159.6 | 94.2 | 〃 |
| アオモジ | 121.2 | 110.8 | 131.4 | 119.7 | 168.2 | 1束(4~5本) |

このなかで、始良郡のA氏は昭和50年頃からクジャクヒバの栽培を始め現在にいたっているのので、その栽培状況をもとに経営分析をした。

クジャクヒバの栽培管理は表-2に示すとおり、所要労働日数の63%が桜島の降灰を洗い落とすなどの収穫作

表-2 クジャクヒバの栽培管理表（10a当り） 平成5年

| 管 理 | 作 業 方 法 | 実施時期 | 所要労働日数(日) | 比率(%) |
|----------------|-----------------------|-------|-----------|-------|
| 育 苗 | さし付け・かん水 施肥・除草 | 4~11月 | 11.7 | 37 |
| 栽 培 (1年目) | 苗木掘取り・植付け 中耕・除草・施肥 | 2~11月 | | |
| 栽 培 (2年目以降) | 中耕・除草・施肥 空気注入・薬剤防除 | 3~11月 | | |
| 収 穫 | 切枝・荷造り・運搬 出荷 | 1~12月 | 20.1 | 63 |
| | 合計 | | 31.8 | 100 |

業のため育苗・栽培にはあまり手間のかからない作目である。

(1) 育 苗

当初A氏は福岡県から苗木を購入していたが、1本400円と高価なため自分で育苗するようになった。さし穂は出荷の時、下枝を切り落としたものを使用するため無料である。さし木の時期は秋さしで9月20日前後にさし付けたものが一番活着がよく、6~7割の歩止まりである。さし穂は取ってから2日間流水につけて、さす直前に鎌で切り返しをする。

さし床は1m幅の床を作って鹿沼土を10cmの厚さに敷込み害虫防除のためまわりを板でかこむ。

5cm×5cmの間隔にさし付けて、2週間は毎日かん水する。その後は2~3日おきに11月までかん水をする。

上部には日覆のため寒冷紗をかけて翌年の梅雨明けに取る。

翌年は4月~9月毎月1回除草、7月森林肥料を施肥する。

コガネムシの幼虫を防除するため、さし付け当初と翌年の4月頃ダイアジノン粒剤を施用する。翌々年の3月掘り取って定植する。

(2) 栽 培

定植1ヶ月前に基肥として牛糞堆肥を10a当り2tonと粒石灰130kgを畑に敷込みトラクターで耕耘する。

また、植付け直前に化成肥料(12:12:10)を80kg散布耕耘する。植付けは3~4月に行い、10a当り1m×1.2m間隔で800本植えている。

次に株間の除草は管理機で行い、株まわりは手取りを2ヶ月おきに年4回実施する。11~12月頃追肥として化成肥料を100kg施肥する。

2年目から4年目までの管理は1年目と大体同じであるが、11月頃堆肥1ton・化成肥料120kg・粒石灰130kg等を施肥している。

5年目以降は除草を年3回実施する。施肥は7月化成肥料60kg・11月化成肥料120kg・粒石灰130kg・堆肥1ton等を施用する。また植栽地には鶏を放し飼いにし除草効果を上げている。

病虫害の防除としては7月～10月頃2～3回、アカガレ病の予防のため殺菌剤とダニ・ウンカ防除のため殺虫剤を混合して散布する。

3. 収穫

クジャクヒバを植栽後、各年齢で1本当たり切枝を何本収穫できるかを知るため固定調査地を設けて4年継続調査を実施した。調査結果は表-3に示すとおりである。この栽培事例では9月さし付け後、翌々年3月まで1年半養苗したのち植付けたものである。10a当り1m×1.2m間隔で800本植えてある。

定植後3年までは、ほとんど収穫されていない。4～5年生で主幹の高さが110～130cmになったころ、高さ20～30cmのところまで1本取って第1回目の収穫を行う。切口より下に4～5本の枝が残るようにして高さは植栽木によって加減する。

残した下枝が伸びてくる6年目から3～4本収穫するようになる。このように6年生以上になると10a当り3本×800本=2,400本以上収穫できることわかった。

収穫した切り枝は枝葉を元口から、上部へ20～30cm

程度切り落とし、桜島の降灰を洗い落して水上げをする。

少なくとも3時間以上水上げをする。特に夏期は水上げが必要である。市況を見ながら順次に出荷するが暮から1月中旬までは価格が安いので避ける。荷姿は10本づつビニールテープで結ぶ。50本単位でセリにかけられる。

4. 経営分析

表-4はA氏の平成4～5年の10a当たりの収益性について示したものであるが、次のような特徴がある。

(1) クジャクヒバの10a当り生産量は年間2,000本前後である。年平均単価は約141円となっており、これは図-1に示すとおり出荷先の鹿児島花市場のクジャクヒバの平均単価142～146円と比較して安い。

数年前までA氏のクジャクヒバは高品質のため市場単価より高かったが、近年毎年襲撃する台風のため植栽木が倒れて曲ったり、芯が折れたりして品質が悪くなったものと思われる。

(2) 粗収益に占める販売経費の割合は10%以内と低い。そのため経営費が少なく、所得率は68～71%になっている。

(3) 労働1日当り所得は5,700～6,200円で当地方の賃金単価と同じ程度であるが、今後まだ収穫作業の改善等により1日当り所得の向上が期待できる。

(4) 収穫出荷の時期はいつでもよいことから、労働配分に融通がきいて畜産との複合経営を実施している。

表-3 収穫量調査

(単位：樹高cm・収穫量本)

| 調査地番号 | 1年生 | | 2年生 | | 3年生 | | 4年生 | | 5年生 | | 6年生 | | 7年生 | | 8年生 | | 9年生 | | |
|-------|------|------|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|--|
| | 樹高 | 樹高 | 樹高 | 収穫量 | 樹高 | 収穫量 | 樹高 | 収穫量 | 樹高 | 収穫量 | 樹高 | 収穫量 | 樹高 | 収穫量 | 樹高 | 収穫量 | 樹高 | 収穫量 | |
| 1 | 48.4 | 74.2 | 109.9 | - | 95.0 | 1.0 | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | 76.5 | 102.2 | 0.3 | 83.5 | 0.7 | 119.7 | - | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | 106.9 | - | 137.9 | 1.0 | 111.4 | 0.7 | 120.4 | 3.4 | | | | | | | | | |
| 4 | | | 105.2 | - | 135.4 | 1.0 | 120.6 | 0.6 | 130.6 | 3.6 | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | 74.7 | - | 101.4 | - | 118.3 | 1.4 | 119.1 | 2.4 | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | | | 120.6 | - | 127.8 | 1.4 | 131.6 | 3.3 | 136.1 | 4.9 | | | |
| 7 | | | | | | | | | | | 128.0 | 3.5 | 157.0 | 2.5 | 157.4 | 7.0 | 144.9 | 2.4 | |
| 平均 | 48.4 | 75.4 | 106.1 | 0.1 | 105.3 | 0.7 | 114.7 | 0.3 | 125.0 | 2.7 | 135.9 | 2.7 | 146.8 | 6.0 | 144.9 | 2.4 | | | |

(注) 各調査地の調査本数は10本である。樹高・収穫本数は10本の平均である。

表-4 クジャクヒバの収益性 (10a当り)

平成4年, 5年

| | 金額 | | 備考 | |
|------------|---------|---------|---|-----------------|
| | 4年 | 5年 | | |
| ①粗収益 | 296,876 | 279,290 | 収量 平均単価 出荷先 4年 2,098本 141.5円 鹿児島 5年 1,982 140.9 花市場 | |
| 経費 | 種苗 | 0 | 自家用苗 | |
| | 肥料 | 42,702 | 30,272 | 堆肥・化成肥料 |
| | 農業 | 2,700 | 1,200 | 殺虫剤・殺菌剤 |
| | 燃料費 | 7,580 | 7,284 | ガソリン代ほか |
| | 諸材料 | 1,714 | 4,058 | 鹿沼土・寒冷紗・敷ワラ |
| | 償却費 | 13,650 | 12,409 | 倉庫・自動車・トラクター・動噴 |
| 販売経費 | 28,026 | 26,772 | 手数料・出荷資材 | |
| ②経営費計 | 96,372 | 81,995 | | |
| ③所得 | 200,504 | 197,295 | ①-② | |
| ④所得率(%) | 67.5 | 70.6 | ③÷① | |
| ⑤所要労働日数(日) | 34.9 | 31.8 | 自家労働力のみ | |
| ⑥労働1日当り所得 | 5,745 | 6,204 | ③÷⑤ | |

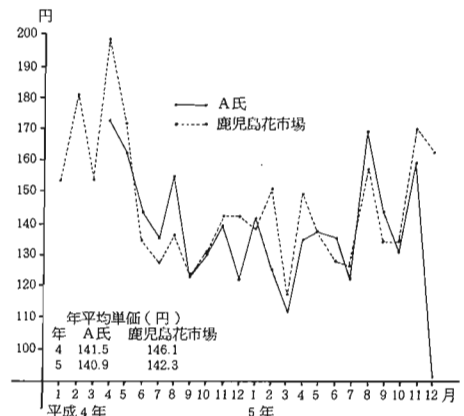


図-1 クジャクヒバの価格推移 (平成4～5年)